

U.S. BATTLESHIP BB-63

# MISSOURI



U.S. BATTLESHIP BB-63

### ■ミズーリの誕生

ミズーリはアメリカ海軍最後の戦艦であるアイオワ級の3番艦です。ニューヨーク海軍工廠で1941年1月6日に起工され、1944年1月29日に進水、同年6月11日に竣工しました。完成は4番艦ウィスコンシンよりも後になったため、アメリカ海軍史上最後に完成した戦艦となりました。

アイオワ級は、仮想敵である日本海軍の金剛型戦艦を念頭に計画されました。米海軍は金剛型を26ノットと判断しており、それを捕捉撃滅するためにアイオワ級は33ノットという高速戦艦として誕生したのです。

米海軍は永年巡洋戦艦の保有を求めていましたが、条約等で実現はせず、アイオワ級はその願望が形を変えて具現化したものと考えてよいでしょう。

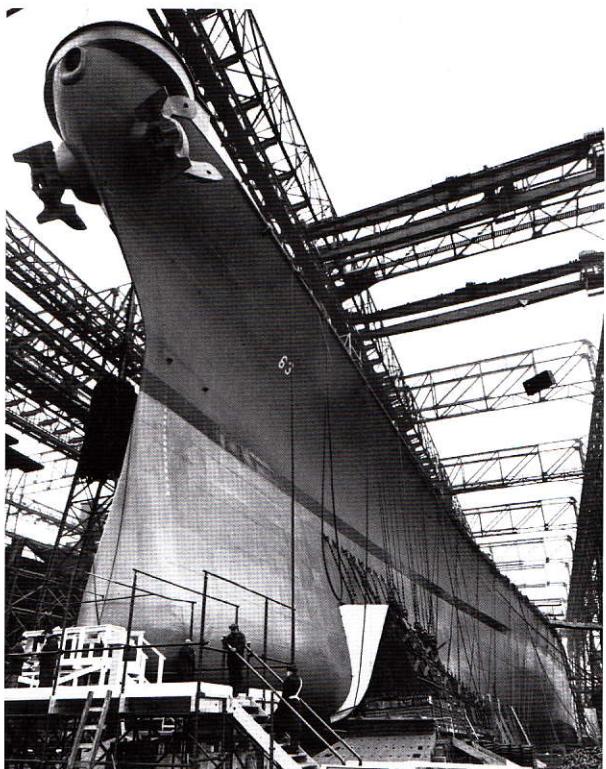
ミズーリの新造当時の要目は次の通りでした。

基準排水量45,000トン、満載排水量57,540トン、全長270.4メートル、幅32.95メートル、喫水11.6メートル、16インチ（40.6センチ）3連装砲3基、5インチ（12.7センチ）連装両用砲10基、主機 蒸気タービン4基/4軸、計画出力21万2000馬力、速力33ノット、航続距離（計画）15ノットで15,000浬（カイリ）、乗組員1921名（計画）他

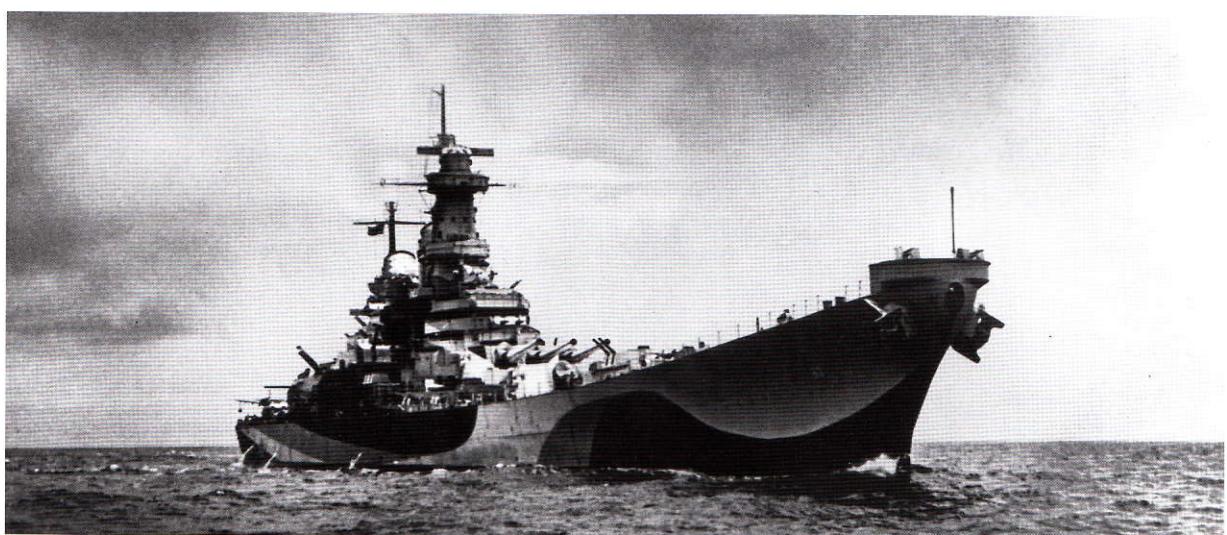
パナマ運河通過のため狭くされた船体幅は、当時の米高速艦艇特有の船体前半が著しく痩せた推進抵抗の小さいデザインと合わせて高速性能の一助となっています。その反面、幅の制約は防御上の問題を残し、痩せた船体前半の小さい浮力は耐波性能他に課題を残しました。しかし、高速空母群に随伴可能な速力は時代の要求に合致しており、

「最良のアメリカ戦艦」との評価もあります。

完成したミズーリは、およそ半年の慣熟訓練の後、1945年はじめに前進基地のウルシー環礁に進出、同年3月から機動部隊に加わり九州、沖縄攻撃の支援を行っています。

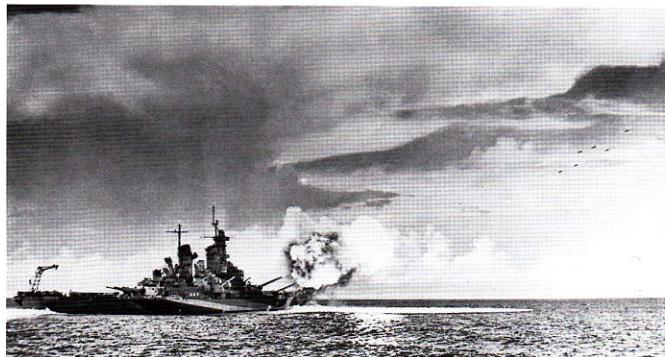


●1941年1月ニューヨーク海軍工廠で起工し、建造が進むミズーリ。  
●Construction of the USS Missouri began in January 1941 at the New York Naval Shipyards.



●1944年6月、就役したミズーリ。見事なまでにはっきりとしたメジャー32迷彩が船体に施されている。

●The USS Missouri as she appeared after her commissioning in June 1944. The Measure 32 camouflage pattern is clearly visible.



●1944年中頃、公試航海中に艦首6門の主砲を試射したミズーリ。写真右斜め上方を飛ぶ砲弾が確認できるだろうか？  
右：1945年4月11日、零戦の特攻を受けるミズーリ。

●Above Left: USS Missouri firing her six forward 16-inch guns during sea trials in mid-1944. The fired shells can be seen in the upper right of the image.  
Above Right: The USS Missouri about to be struck by a kamikaze on April 11, 1945.

沖縄攻略戦中の4月に日本軍の特攻機の突入により損傷し、それ以外に被害を受けることはありませんでした。

5月には、修理のために本国に戻るニュージャージーと交代してハルゼー大将の将旗を揚げ第3艦隊旗艦となり、以後、日本近海で室蘭砲撃などを実施し、終戦の日も日本攻撃の機動部隊を支援中でした。

9月2日の東京湾における日本の降伏文書調印式がミズーリ艦上で行われたことは広く知られており、日本にとって忘却されない戦艦といえるでしょう。

調印式後の9月5日に旗艦をサウス・ダコタに移し、ミズーリは早々に日本を離れました。グアム、パールハーバーを経由して本国に帰還した本艦は、それ以降、大西洋艦隊旗艦や遠洋航海の練習艦として使用され、姉妹艦が次々と予備役に入れられた後も一隻だけ現役に留まり続けました。

朝鮮戦争勃発時に現役にあった本艦は、第7艦隊旗艦となり、元山砲撃などの火力支援を行っています。

1955年2月、姉妹艦の中で最も長く現役を続けた本艦は予備艦隊に編入、モスボール工事の後ブレマートンで長い眠りにつきました。



●1945年9月2日、東京湾に停泊中のミズーリ甲板上にて行われた大日本帝国の降伏文書調印式の様子。  
●The Japanese Instrument of Surrender was signed on the deck of the USS Missouri in Tokyo Bay on September 2, 1945.



#### ■再就役と湾岸戦争

モスボール中にはミサイル戦艦や後部に飛行甲板を持つ航空戦艦への改造、あるいはスクラップといった案が出ましたが、いずれも実現せずに終わっています。

戦後の冷戦構造の下、仮想敵のソ連は急速な海軍の外洋艦隊化を進め、特に1960年代以降の艦艇の増強ぶりは世界の脅威となりました。

それに対する米海軍は、ベトナム戦後遺症による国内世論の反戦化の影響や、第二次大戦時に建造された大量の艦艇の引退などが重なり、隻数では減少の傾向がありました。

しかし、1981年に就任したレーガン大統領は「強いアメリカ」を謳い、対ソ連への積極策に出ました。

その一つが米海軍の600隻艦隊計画で、その目玉と言えるのがアイオワ級の復活でした。

1984年5月から、フィラデルフィア海軍工廠で復旧工事に着手されたミズーリは、ニュージャージー、アイオワに続く三番手として、1986年5月に31年ぶりに現役に復活したのです。ミズーリの再就役工事には当時の金額で4億7330万ドルの予算が使われたといわれています。

40.6センチの主砲はそのままに、両用砲の一部を撤去して改造された中央部には、トマホーク巡航ミサイル4連装装甲付き発射機8基、ハープーン対艦ミサイル4連装発射筒4基、20ミリファランクスCIWS 4基を搭載し、艦尾にはヘリコプター発着パッドが敷かれました。

レーダー類は新式の三次元レーダーSPS-49などに変更され、電子戦装置やチャフなどの新装備も追加されました。

現代の軍艦と異なり、巨大な主砲を搭載した見た目でわかりやすい戦闘艦である戦艦は、敵を威圧する効果は大きいと考えられ、その主砲の精密な射撃能力も大きな期待を



●1983年、改修のため移動中のミズーリ。再使用を考慮して対空兵器を保護するお椀状のモスボールと呼ばれるドームが取り付けられている。

●This image shows USS Missouri en route to her refit in 1983. Dome-shaped "mothballs" had been applied to her AA gun positions to preserve them for re-use.

もって迎えられました。

また、懐かしさを誘ったのか、乗組員希望者を募った際には多数の希望者で高倍率となっています。

蘇ったミズーリは訓練の後、ミサイル巡洋艦バンカー・ヒルなどと共にアラビア海に展開しました。

1980年から続くイラン・イラク戦争で、ペルシャ湾のタンカーに大きな被害が出ていたためです。アメリカは、タンカーへ艦艇の護衛を付けた他、空母他の各種艦艇を周辺海域に展開させていました。

しかし、アイオワ級の再就役が徐々に進んでいたこのころ、世界情勢には大きな変化が表れ始めていました。ライバルであるソ連という国家の変質です。

ソ連は、1985年のゴルバチョフ書記長就任以降、ペレストロイカ(改革)、グラスノスチ(情報開示)が急速に進みました。しかし、それは改革程度にとどまるではなく、構成国の独立、共産主義の解体、そしてついにはソ連という国家そのものが崩れ去ってしまう事態に発展していきました。長年の冷戦構造はこうしてあっけなく崩壊してしまったのです。

仮想敵ソ連が自己崩壊したことはまた、米海軍の戦略構想にも大きな影響を与えました。600隻艦隊の計画が消滅したのはもちろん、現有戦力の削減へと流れが変わっていました。対ソ連の急先鋒として蘇ったばかりのアイオワ級も余剰とみなされ、他の老朽艦とともに退役の対象とされました。

とりあえず2隻の退役が決定し、まずアイオワが1990年10月に退役しました。続いてニュージャージーも退役準備に入りましたが、そのころ中東に再び危機が訪れました。イラク軍がクウェートに侵攻したのです。

作戦可能なミズーリとウイスコンシンは中東に派遣されました。

ミズーリは1991年元日から中東に展開し、1月16日の早朝、トマホークを敵地に向けて発射しました。湾岸戦争の始まりであるとともに、トマホーク巡航ミサイルの初の実戦投入でもありました。

本艦のトマホーク攻撃は1月20日まで続き、その間、本艦からはトマホークが28発発射されました。

2月に入るとイラク海軍はほぼ壊滅し、反撃の危険性は低くなつたため、ミズーリら戦艦2隻は2月3日から沿岸に接近してイラク軍地下施設への艦砲射撃を実施しました。

この艦砲射撃は、艦砲射撃後に米軍が上陸していくという敵の先入観を利用した陽動作戦であり、イラク軍の指揮系統に混乱を与え、その後の米軍の侵攻作戦を有利に導きました。

湾岸戦争そのものは、2月27日に終わりましたが、ミズーリは引き続き3月24日まで警戒を続けました。

かつて艦砲射撃の際には、艦尾に搭載していた水上観測機が目的地上空に滞空し、砲撃結果などの情報を艦へ伝達していました。しかし、湾岸戦争ではその役目は無人機(UAV)が行いました。当時、戦艦に搭載されていた無人機は、1986年に採用されたRQ-2パイオニアという機種でした。時代の大きな変化を感じます。

巨砲の威力を期待されて復帰しながら、実際の艦砲射撃は敵の海軍が壊滅し、海上の安全が確保されてから行われています。対潜能力を全く持たず、対空能力も貧弱な上、大きな船体は敵の攻撃目標になりやすいという弱点をカバーするための措置でした。



●ウェポンデッキからトマホークを発射するミズーリ。  
●USS Missouri launches a Tomahawk cruise missile.



●1991年2月12日、湾岸戦争でペルシャ湾からイラクに向かって発砲中のミズーリ。  
●The USS Missouri as seen deployed in the Persian Gulf on February 12, 1991, during a bombardment off the coast of Iraq.

ミズーリは期間中に700発以上の主砲弾を敵地に撃ち込みましたが、この戦いでの主役は戦艦の艦砲射撃ではなく、ミサイルや爆弾などの精密攻撃が可能なハイテク兵器の数々でした。それらは戦いそのものを変質させていました。冷たいハイテク兵器と、多くの人手が必要な戦艦とでは、あまりにも対照的な存在であり、かつてのような戦艦の存在感は薄れていきました。

湾岸戦争終結後の1991年9月にはニュージャージーとワイスクンシンが揃って退役し、現役はミズーリ一隻のみとなりました。

同年12月、パールハーバーで真珠湾攻撃50周年の記念式典が行われ、ミズーリも参加しました。本艦にとっての大きな行動はこれが最後となりました。皮肉なことに、かつての宿敵ソ連は、この12月のクリスマスの日、完全に解体しています。

翌1992年3月31日、マイティ・モーという愛称で親しまれた戦艦ミズーリは、ロングビーチで退役しました。戦艦史上、一番最後に現役を退いた戦艦となりました。

退役後しばらくは即時復帰体制におかれていますが、1995年1月12日、姉妹艦4隻は揃って除籍となりました。もはや二度と復帰する機会はなくなったのです。

1998年5月4日、ミズーリは米海軍からミズーリ保存協会に寄贈され、整備の後、パールハーバーに係留、記念館として保存されることになりました。

真珠湾攻撃で沈んだ戦艦アリゾナに艦首を向ける姿で係留されたミズーリは、1999年1月29日に記念館としてオープンしました。船は一般的に水に浮かんだ進水の日を誕生日としますが、この日はミズーリの55回目の誕生日でした。

2012年8月には来館者が500万人を超えるました。その他、

映画への撮影協力など、引退後もミズーリは華やかな話題に事欠かない存在であり続けています。

#### ■おわりに

アイオワ級戦艦は、その現役時代、常に圧倒的な味方勢力を背景に存在していた点がひとつの特徴です。第二次世界大戦末期の絶対的な米軍優勢下に登場し、最後の湾岸戦争までそれは変わりませんでした。アイオワ級よりも前の米新戦艦も含め、世界の戦艦史上でこれほど好条件の下のみに長く存在できた戦艦は他に例がないといえるでしょう。このためアイオワ級戦艦の戦闘による損傷経験は、生涯を通して大規模なものはありませんでした。

「最良の戦艦」と形容される本級ですが、防御力不足などの問題点を露呈する機会は一度もなかったのです。これは日本の大和型戦艦と対極の存在といえるかもしれません。

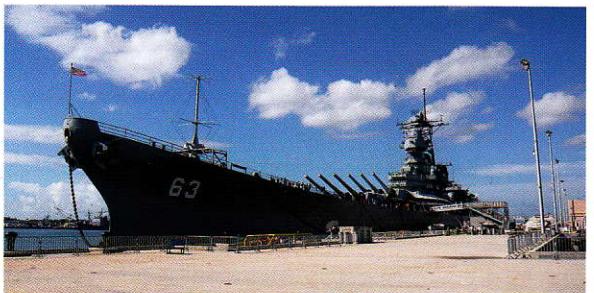
しかし、純粋な戦艦としての能力を発揮しないままに終わったという点は大和型と同様であり、それはもはや完成した時代が戦艦の時代ではなかったことを意味しているものといえるでしょう。

■解説:小林 義秀



●1945年9月2日、本艦甲板上で、終戦調印が行われた。そのときの記念プレートが今も残る。

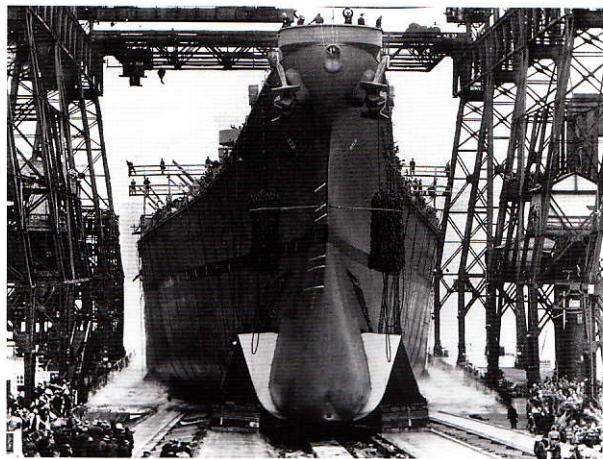
●This plaque on the USS Missouri's deck commemorates the signing of the Japanese surrender documents on September 2, 1945.



●現在、ミズーリはハワイに係留され、記念館として保存されている。  
●The USS Missouri is preserved in Hawaii as a museum ship.

**■The Birth of "Mighty Mo"**

The USS Missouri (BB-63) was the third ship of the Iowa-class, the last battleships operated by the U.S. Navy. Laid down on January 6, 1941 at the New York Naval Shipyards, she was launched on January 29, 1944 and commissioned on June 11, 1944. Missouri was actually finished after the fourth ship of the Iowa-class, the USS Wisconsin (BB-64), so she was the final battleship to be completed in the U.S. Navy's history. Designed to counter the Japanese Navy's Kongo-class battleships, the



●1944年1月29日。進水式を迎えたミズーリ。

●The USS Missouri was launched on January 29, 1944.

Iowa-class was created as fast battleships which could reach speeds of up to 33 knots. The Missouri's specifications at the time of her completion were as below:

Standard Displacement:	48,500 tons
Full Load Displacement:	53,000 tons
Length:	270.6m
Beam:	32.97m
Draft:	10.6m
Armament:	Triple 40.6cm gun turret x3 Twin 12.7cm 38-caliber DP gun turret x10
Propulsion:	4 steam turbines, 4 screws
Output:	212,000hp
Maximum Speed:	33 knots
Range:	15,000 nautical miles (at 15 knots)
Crew:	1,921

The narrow beam was necessitated by the need to pass through the Panama Canal and the resulting smaller bow cross section provided less drag, which contributed to higher speeds. On the other hand, the limited width compromised the armor protection scheme and the lower mass of the bow section also affected forward buoyancy and seakeeping. Nevertheless, the Iowa-class

design was well suited to the era of fast aircraft carrier operations and many consider them to be the best American battleships of all time.

Following her completion, Missouri spent about six months in training before deploying to the forward base at Ulithi Atoll in early 1945. She then joined up with the aircraft carrier task force and supported attacks on Kyushu and Okinawa. Missouri was struck by a kamikaze aircraft while in action off the coast of Okinawa in April, but otherwise did not suffer notable damage. In May, she became the flagship of Admiral William Halsey's Third Fleet and participated in actions such as the bombardment of Muroran in Hokkaido while supporting the carriers until the end of the war. It is a well known fact that the signing ceremony of Japan's surrender documents took place on the Missouri's decks on September 3, 1945, so her name is one which is etched into the memories of Americans and Japanese alike.

Missouri returned to the United States soon after that signing ceremony and subsequently served as the flagship of the U.S. Atlantic Fleet as she remained in service while her sister ships were placed in reserve one after another. Missouri was thus available when the Korean War broke out and she became the flagship of the U.S. 7th Fleet, participating in actions such as the bombardment of Wonsan. Following the end of the Korean War, she was mothballed at the reserve fleet anchorage at Bremerton, Washington.

**■Recommissioning & 1991 Gulf War**

There were proposals to equip Missouri with guided missiles, modify her to carry aircraft, or allow her to be scrapped, but none of these plans were implemented. Meanwhile, the Cold War was in full swing and the rapid increase of the Soviet Union's naval strength from the 1960s onward was seen as a threat. In contrast, the United States, which was influenced by strong anti-war sentiment following the Vietnam War, had decommissioned many WWII-era ships as part of a movement to reduce the size of its navy. This trend was halted when Ronald Reagan took office as the President of the United States in 1981. He championed a strong America and took a hard line stance against the Soviet Union. To this end, he pushed for the creation of a "600-ship Navy," and the recommissioning of the Iowa-class battleships was one of the main elements of this plan. From May 1984, the Missouri was prepared for reactivation at the Long Beach Naval Shipyards and she rejoined the U.S. Navy on May 31, 1986, 31 years since she had last seen service.

The 40.6cm main gun turrets were retained while several of her secondary battery turrets were replaced by eight quadruple

Tomahawk cruise missile launchers, four quadruple Harpoon anti-ship missile launchers, and four 20mm Phalanx Close-In Weapon Systems (CIWS). A helicopter landing pad was added at her stern and other state-of-the-art equipment such as AN/SPS-49 radar, electronic warfare systems, and chaff launchers were also installed. Although modernized, the Missouri's instantly recognizable battleship form gave her a formidable aura that was unmatched by newer warships. Perhaps drawn by this aura or by nostalgia, when the U.S. Navy sought crew for the ship the number of applications was far more than the number of available positions.

However, the global political situation, in particular the state of the Soviet Union, was changing at the same time as the Iowa-class' reactivation. After Mikhail Gorbachev took office in 1985, policies such as perestroika (restructuring) and glasnost (openness) progressed rapidly. These led to the independence of the republics which were part of the Soviet Union, the dissolution of the Communist Party, and the eventual collapse of the Soviet Union as a country. With the perceived enemy no longer in existence, the Cold War era also drew to an end. This consequently had a large effect on the U.S. Navy as the 600-Ship Navy program was cancelled in conjunction with movements toward force reduction. Although they had only just been reactivated, the Iowa-class was slated for retirement. The USS Iowa (BB-61) was decommissioned in October 1990 and the USS New Jersey (BB-62) was being prepared to join her when a new conflict erupted in the Middle East.

Following Iraq's invasion of Kuwait, the remaining Missouri and Wisconsin were deployed to the Middle East. On the morning of January 16, 1991, Missouri helped conduct the first firing of Tomahawk cruise missiles in combat during the opening stages of the Gulf War. By January 20th she had fired 28 missiles and with the threat from the Iraqi Navy eliminated, she and Wisconsin drew closer to the shore to bombard Iraqi military positions on February 3rd. In the past, manned observation aircraft would provide spotting for the battleship bombardment, but in a modern twist this task was carried out by unmanned aerial vehicles (UAV). There had been much emphasis on the firepower of the battleships' guns, but in reality the Missouri had only fired 289 shells during the Gulf War. In addition, the battleships did not have any anti-submarine capability, had very little anti-air capability, and were therefore conspicuous targets until enemy threats were eliminated to make the bombardments possible. The Gulf War proved that the era of high-tech



●最新の装備を身にまとめて航行中のミズーリ。  
●USS Missouri as seen with modern equipment.

precision-guided bombs and missiles had arrived to change the way in which wars would be fought. A battleship that required a lot of people to operate did not belong in such a world, so after the end of the Gulf War on February 27th, the New Jersey and Wisconsin were both decommissioned in September 1991. Missouri served for a while longer as the last active battleship in naval history. She participated in the memorial of the 50th Anniversary of the attack on Pearl Harbor in December before being decommissioned at Long Beach on March 31, 1992.

The four Iowa-class battleships were kept in reserve until January 12, 1995, when they were finally removed from the U.S. Navy's register. On May 4, 1998, the U.S. Navy donated the Missouri to the USS Missouri Memorial Association and she opened to the public as the Battleship Missouri Memorial at Pearl Harbor on January 29, 1999, 55 years after she was originally launched. By August 2012, over 500 million people had visited her and she continued to remain in the public eye through appearances in various Hollywood films.

### ■In Closing

The Iowa-class was notable in that they were deployed under extremely favorable circumstances. Earlier battleships were often involved in fierce gun battles with their peers and many suffered heavy damage while the Iowa-class was never involved in such actions due to U.S. dominance near the end of WWII. The same could be said of the operating environment during the Gulf War. Therefore the Iowa-class could be considered the polar opposite of the Japanese Yamato-class ships. However, neither class of ships was able to fulfill their original mission of combating each other, so in that sense they shared the distinction of marking the end of the battleship era.

Original Japanese text by Mr. Yoshihide Kobayashi



●1944年7月、停泊中のミズーリ。メジャー32/デザイン22D迷彩が施されている。

●Image shows USS Missouri, with a Measure 32, Design 22D camouflage pattern, at anchor in July 1944.

#### ■Die Geburt der "Mighty Mo"

Die USS Missouri (BB-63) war das dritte Schiff der Iowa Klasse, eines der letzten Schlachtschiffe welches von der US Navy eingesetzt wurde. Nach ihrer Kiellegung am 06. Januar 1941 auf der New Yorker Marinewerft fand der Stapellauf am 29. Januar 1944 statt und sie wurde am 11. Juni 1944 in Dienst gestellt. Die Missouri wurde nach dem vierten Schiff der Iowa Klasse der USS Wisconsin (BB-64) fertiggestellt und war somit das letzte Schlachtschiff das in der Geschichte der US Marine gebaut wurde. Entwickelt um den Schlachtschiffen der Kongoklasse der japanischen Marine entgegenzutreten wurden die Schiffe der Iowa Klasse als schnelle Schlachtschiffe entwickelt, welche Geschwindigkeiten bis zu 33 Knoten erreichen konnten. Die technischen Daten der Missouri zum Zeitpunkt ihrer Indienststellung waren wie folgt:

Verdrängung:	48,500 Tonnen
Verdrängung voll beladen:	53,000 Tonnen
Länge:	270.6m
Breite:	32.97m
Tiefgang:	10.6m
Bewaffnung:	Dreimal 40.6cm 3-fach Turm 10x 12.7cm 38-Kaliber DP Zwillingsturm
Antrieb:	4 Dampfturbinen, 4 Schrauben
Leistung:	212,000hp
Höchstgeschwindigkeit:	33 Knoten
Reichweite:	15,000 nautische Meilen (bei 15 Knoten)
Besatzung:	1,921

Die geringe Breite war erforderlich geworden um den Panama Kanal durchfahren zu können. Sie führte letztlich aber auch zu einer

schlankeren Struktur am Bug, was letztlich zu einer höheren Geschwindigkeit führte. Andererseits beschränkte die geringe Breite den Panzerschutz und die geringere Masse der Bugsektion beeinflusste den Auftrieb und die Seegängigkeit. Ungeachtet dessen passte das Design der Iowa Klasse gut in die Zeit der schnellen Flugzeugträgeroperationen und viele Quellen betrachten sie als die besten amerikanischen Schlachtschiffe aller Zeiten.

Nach ihrer Fertigstellung verbrachte die Missouri etwa 6 Monate mit Training bevor sie im Frühjahr 1945 ins Ulithi Atoll entsendet wurde. Sie schloss sich dort einer Flugzeugträgerkampfgruppe an und unterstützte Angriffe auf Kyushu und Okinawa. Im April wurde die Missouri während einer Aktion an der Küste von Okinawa von einem Kamikaze Flieger getroffen, erlitt aber keine erwähnenswerte Beschädigung. Im Mai wurde sie das Flaggschiff der dritten Flotte von Admiral William Halsey und nahm an dem Beschuss von Muroran in Hokkaido teil. Sie unterstützte die Flugzeugträger bis zum Ende des Krieges. Es ist eine wohlbekannte Tatsache dass die japanische Kapitulation auf dem Deck der Missouri am dritten September 1945 stattfand. Damit ist ihr Name in die Geschichte der Amerikaner und der Japaner eingegangen.

Die Missouri kehrte nach der Unterschriftszeremonie in die Vereinigten Staaten zurück und wurde als Flaggschiff der atlantischen Flotte genutzt. Sie blieb im Dienst, während die Schwester Schiffe Eines nach dem Anderen in die Reserve versetzt wurden. Die Missouri war deshalb sofort verfügbar als der Koreakrieg ausbrach und wurde sofort das Flaggschiff der siebten Flotte, wobei sie an Einsätzen wie zum Beispiel dem Beschuss von Wonsan teilnahm. Nach dem Ende des Koreakrieges wurde sie in die Reserveflotte in Bremerton, Washington versetzt.

## ■Erneute Indienststellung und Golfkrieg 1991

Es gab verschiedene Vorschläge, die Missouri mit Lenkwaffen auszustatten, sie umzubauen als Flugzeugträger oder ihre Verschrottung zu erlauben, aber keiner dieser Pläne wurde ausgeführt. In der Zwischenzeit war der kalte Krieg auf seinem Höhepunkt und der rasante Aufbau der Flotte der Sowjetunion in den 60er Jahren wurde als Bedrohung angesehen. Im Gegensatz dazu hatten die Vereinigten Staaten durch einen starken Einfluss der Friedensbewegung nach dem Vietnamkrieg getrieben viele Kriegsschiffe aus der Zeit des zweiten Weltkrieges außer Dienst gestellt und damit die Größe der Marine verkleinert. Dieser Trend wurde umgekehrt als Ronald Regan 1981 Präsident der Vereinigten Staaten wurde. Er propagierte ein starkes Amerika und baute eine harte Position gegen die Sowjetunion auf. Schließlich forderte er eine „600-Schiffsmarine“ und die Indienststellung der Schlachtschiffe der Iowa Klasse war einer der Hauptbestandteile dieses Plans. Vom Mai 1984 an wurde die Missouri auf der Marinewerft von Long Beach für die Reaktivierung vorbereitet und sie wurde am 31. Mai 1986 wieder in die US Marine aufgenommen, 31 Jahre nach ihrem letzten Einsatz.

Die 40,6 Türme der Hauptbewaffnung wurden beibehalten, während einige der Geschütztürme der mittleren Artillerie ersetzt wurden durch acht Vierfachstarter für Tomahawk Cruise Missiles, vier Vierfachstarter für Harpoon Anti-Schiffsraketen und vier 20mm Phalanx Nahbereichsabwehrsysteme. Am Heck wurde eine Hubschrauberlandefläche angebracht. Zuletzt wurde die damals übliche Ausstattung mit einem AN/SPS49 Radar, Systemen zur elektronischen Kampfführung und Düppelwerfern eingebaut. Obgleich die Missouri modernisiert wurde gab ihr ihre immer noch erkennbares Design als Schlachtschiff ein Aussehen das von neueren Kriegsschiffen nicht erreicht wurde. Vielleicht gerade durch diese Aura oder nostalgische Gefühle war die Zahl der Freiwilligen für die Besatzung weit höher als die Zahl der freien Planstellen.

Die politische Situation, speziell in der Sowjetunion änderte sich jedoch genau zum Zeitpunkt der Reaktivierung der Iowa Klasse. Nachdem Michael Gorbatschow im Jahr 1985 sein Amt antrat schritten die Reformen Perestroika (Umbau) und Glasnost (Offenheit) schnell voran. Das führte zur Unabhängigkeit der Republiken die vorher Teil der Sowjetunion waren, zur Auflösung der kommunistischen Parteien und im Grunde genommen zum Zusammenbruch der Sowjetunion als eigenständiger Staat. Mit dem Wegfall des vorher allgegenwärtigen Feindes war die Zeit des kalten Krieges zu Ende. Das hatte logischerweise große Auswirkungen auf die US Marine und das „600-Schiff Programm“ wurde aufgegeben zu Gunsten einer weiteren Reduzierung der Streitkräfte. Obwohl sie gerade erst reaktiviert worden waren wurden die Iowa Klasse in den Ruhestand geschickt. Die USS Iowa (BB-61) wurde im Oktober 1990 außer Dienst gestellt und die USS New Jersey (BB-62) wurde gerade vorbereitet um ihr zu folgen, als ein neuer Konflikt im mittleren Osten ausbrach.

Nach der irakischen Invasion in Kuwait wurden die Verbliebenen

Schiffe Missouri und Wisconsin in den mittleren Osten versetzt. Am 16. Januar 1991 schoss die Missouri die ersten Tomahawk Cruise Missiles zum Beginn des Golfkrieges ab. Am 20. Januar hatte sie 28 Raketen abgefeuert und nach dem Ausschalten der irakischen Marine fuhren sie und die Wisconsin näher an die Küste heran um am dritten Februar irakische Stellungen zu bekämpfen. In der Vergangenheit übernahmen benannte Flugzeuge die Aufklärung für das Feuer der Schlachtschiffe. In der Neuzeit wurde diese Aufgabe durch unbemannte Flugzeuge (UAV) erledigt. Zunächst wurde der Feuerkraft der Geschütze der Schlachtschiffe hohe Bedeutung beigemessen aber in der Realität hat die Missouri nur 289 Granaten während des gesamten Golfkrieges verschossen. Zusätzlich zeigte sich, dass die Schlachtschiffe keine Fähigkeit zur U-Boot Abwehr und eine sehr geringe Flugabwehrkapazität hatten und deshalb so lange gefährdete Ziele für die feindlichen Kräfte waren bis deren Bedrohung eliminiert wurde und sie eingesetzt werden konnten. Der Golfkrieg hatte gezeigt, dass präzisionsgelenkte Bomben und Raketen der High-Tech Ära die Methoden verändert hatten wie Kriege geführt wurden. Ein Schlachtschiff das eine riesige Besatzung erforderte passte nicht in diese Welt und nach dem Ende des Golfkrieges am 27. Februar wurden die New Jersey und die Wisconsin beide im September 1991 außer Dienst gestellt. Die Missouri blieb noch eine Weile länger das letzte aktive Schlachtschiff in der Marinegeschichte. Sie nahm an den Feierlichkeiten zum 50. Jahrestag des Angriffes auf Pearl Harbour im Dezember teil, bevor sie in Long Beach am 31. Mai 1992 außer Dienst gestellt wurde.

Die vier Schlachtschiffe der Iowa Klasse wurden bis zum 12. Januar 1995 in Reserve gehalten bevor sie endgültig aus der US Marine gestrichen wurden. Am 04. Mai 1998 verschenkte die US Marine die Missouri an die „USS Missouri Memorial Association“ und sie wurde für die Öffentlichkeit als Schlachtschiff-Denkmal in Pearl Harbour am 29. Januar 1999 eröffnet, 55 Jahre nach ihrem Stapellauf. Bis zum August 2012 hatten 500 Millionen Menschen sie besucht und sie blieb der Öffentlichkeit erhalten durch Auftritte in verschiedenen Hollywood-filmen.

## ■Zusammenfassung:

Die Iowa Klasse wurde bekannt dadurch dass sie unter extrem günstigen Begleitumständen eingesetzt wurde. Die früheren Schlachtschiffe waren oft in heftige Feuergefechte verwickelt und viele von ihnen wurden schwer beschädigt, während die Schiffe der Iowa Klasse keine derartigen Einsätze sahen, da die Vorherrschaft der Vereinigten Staaten während des zweiten Weltkrieges bereits extrem stark war. Deshalb kann man die Schiffe der Iowa Klasse als Gegenstück zu den Schiffen der japanischen Yamato Klasse sehen. Wie auch immer, keine der beiden Schiffsklassen konnte für ihren eigentlichen Zweck eingesetzt werden um gegen andere Schlachtschiffe zu kämpfen. Nicht allein deshalb war es ihr Schicksal die Zeit der großen Schlachtschiffe zu beenden.

Original Japanisch-Text : Hr. Yoshihide Kobayashi

**■La Naissance du "Mighty Mo"**

Le USS Missouri (BB-63) était le troisième bâtiment de la classe Iowa, les derniers cuirassés utilisés par l'U.S. Navy. Mis sur cale le 6 janvier 1941 aux chantiers navals de New York, il fut lancé le 29 janvier 1944 et entra en service le 11 juin suivant. Le Missouri fut en fait terminé après la quatrième unité de la classe Iowa, le USS Wisconsin (BB-64), et il fut donc le dernier cuirassé construit pour la marine américaine. Conçue pour contrer la classe de cuirassés japonais de la classe Kongo, la classe Iowa était une série de cuirassés rapides capables d'atteindre 33 nœuds. A sa sortie des chantiers, le Missouri avait les caractéristiques suivantes :

Déplacement Standard:	48.500 tonnes
Déplacement à pleine charge:	53.000 tonnes
Longueur:	270,6m
Largeur:	32,97m
Tirant d' eau:	10,6m
Armement:	Tourelle triple de 40,6cm x3
	Tourelle double DP 12,7cm 38 calibres x10
Propulsion:	4 turbines à vapeur, 4 hélices
Puissance:	212.000cv
Vitesse Maximale:	33 nœuds
Autonomie:	15.000 miles nautiques (à 15 nœuds)
Equipeage:	1.921

L'étroitesse du navire lui permettait de traverser le Canal de Panama et la section réduite de l'étrave limitait la trainée, contribuant à la vitesse élevée. Par contre, la masse réduite de la proue affectait la flottabilité à l'avant et la tenue à la mer et les possibilités de protection par blindages étaient limitées. Néanmoins, le concept de la classe Iowa était bien adapté aux opérations des groupes aéronavals rapides de l'époque et beaucoup considèrent les classe Iowa comme les meilleurs cuirassés américains de tous les temps.

A la fin de sa construction, le Missouri passa environ six mois d'entraînement avant d'être déployé sur la base avancée de l'atoll

d'Ulithi début 1945. Il rejoignit ensuite la task force aéronavale et participa aux attaques de Kyushu et Okinawa. Le Missouri fut touché par un avion kamikaze au large d'Okinawa en avril, mais à part cela, ne souffrit d'aucun dommage notable. En mai, il devint le navire amiral de la 3<sup>ème</sup> Flotte de l'Amiral William Halsey et participa à diverses actions comme le bombardement de Muroran à Hokkaido tout en accompagnant les porte-avions jusqu'à la fin de la guerre. Le Missouri a été rendu célèbre par la signature à son bord de la reddition japonaise le 3 septembre 1945. Son nom reste donc bien présent dans les mémoires des américains et des japonais.

Le Missouri revint aux Etats-Unis juste après cette cérémonie puis devint le navire amiral de la Flotte de l'Atlantique américaine, restant en service alors que ses sisterships étaient mis en réserve l'un après l'autre. Le Missouri était donc disponible lorsqu'éclata la Guerre de Corée et il devint le navire amiral de la 7<sup>ème</sup> Flotte Américaine, participant à diverses opérations dont le bombardement de Wonsan. A la fin de la Guerre de Corée, il fut mis en sommeil aux docks de Bremerton, Washington.

**■Retour en Service & Guerre du Golfe 1991**

Il y eut divers projets d'équiper le Missouri de missiles guidés, de le modifier pour emporter des aéronefs, ou même de le ferrailier mais aucun de ces plans n'aboutit. Cependant, la Guerre Froide battait son plein et l'accroissement rapide de la puissance navale soviétique à partir des années 1960 constituait une menace grandissante. Au contraire, les Etats-Unis, influencés par de forts sentiments antimilitaristes après la Guerre du Vietnam, avaient retiré du service de nombreux navires datant de la 2<sup>ème</sup> G.M. pour réduire la taille de leur marine de guerre. Cette tendance fut stoppée lorsque Ronald Reagan devint Président des Etats-Unis en 1981. Il était partisan d'une Amérique forte et opta pour une ligne dure face à l'Union Soviétique. A cet effet, il milita pour la création d'une "Marine de 600 navires," et la remise en service des cuirassés de la classe Iowa était l'un des éléments majeurs de ce plan. A partir de mai 1984, le



●1944年8月、シェイクダウン中のミズーリ。鮮やかな迷彩が施されている。左奥に移っているのはUSSアラスカ。

●The USS Missouri as seen anchored in Guantanamo Bay in July 1944, not long after her commissioning. She had an eye-catching camouflage scheme at the time.

Missouri fut préparé pour sa remise en service aux chantiers navals de Long Beach et il réintégra l'active de l'U.S. Navy le 31 mai 1986, 31 ans après sa mise à la retraite.

Les tourelles principales de 40,6cm avaient été conservées tandis que plusieurs de ses tourelles secondaires avaient été remplacées par huit lance-missiles de croisière Tomahawk quadruples, quatre lance-missiles antinavires Harpoon quadruples et quatre systèmes de défense anti-aérienne rapprochée (CIWS) Phalanx de 20mm. Une plateforme pour hélicoptère fut ajoutée à la proue et d'autres équipements d'avant-garde tels un radar AN/SPS-49, des systèmes de guerre électronique et des lance-leurres furent également installés. Bien que modernisé, le Missouri avait conservé sa silhouette de cuirassé reconnaissable entre toutes qui le distinguait des navires plus récents. Du fait de cette réputation et par nostalgie, les demandes d'engagement à bord du Missouri dépassèrent largement le nombre de postes à pourvoir.

Cependant, la situation politique mondiale, en particulier l'état de l'Union Soviétique, avait changé au moment de la réactivation de la classe Iowa. Après l'arrivée au pouvoir de Mikhaïl Gorbachev en 1985, les politiques de la perestroïka (restructuration) et de la glasnost (ouverture) progressaient rapidement. Cela entraîna l'indépendance des républiques qui constituaient l'Union Soviétique, la dissolution du Parti Communiste et la fin annoncée de l'URSS en tant que nation. L'ennemi potentiel ayant cessé d'exister, la Guerre Froide prit fin. Cela eut un effet considérable sur l'U.S. Navy avec la suppression du programme de 600 navires et des réductions de forces. Revenus en service depuis peu, les bâtiments de la classe Iowa furent remis à la retraite. Le USS Iowa (BB-61) quitta le service actif en octobre 1990 et le USS New Jersey (BB-62) était préparé pour sa mise en sommeil lorsqu'éclata un nouveau conflit au Moyen-Orient.

Suite à l'invasion du Koweït par l'Irak, le Missouri et le Wisconsin furent déployés au Moyen-Orient. Le matin du 16 janvier 1991, dans les premiers jours de la Guerre du Golfe, le Missouri participa aux premiers tirs de missiles de croisière Tomahawk en action de combat. Le 20 janvier, il avait tiré 28 missiles et avec la menace de la marine irakienne éliminée, il se rapprocha des côtes accompagné du Wisconsin pour bombarder des positions irakiennes le 3 février. Par le passé, des avions d'observation se chargeaient de la reconnaissance des cibles pour le réglage de l'artillerie du bord, mais ces tâches sont maintenant confiées à des drones pilotés depuis le sol. On a mis beaucoup l'accent sur la puissance de feu des canons du Missouri, mais ils n'ont tiré que 289 obus durant la Guerre du Golfe. De plus, les cuirassés n'avaient aucune capacité de lutte anti-sous-marin et une très faible défense anti-aérienne et ils constituaient

des cibles de choix. Les bombardements ne furent donc possibles que lorsque toutes les menaces ennemis furent éliminées. La Guerre du Golfe a démontré que l'ère des bombes et des missiles guidés de haute précision était arrivée et allait radicalement changer la conduite des guerres. Un cuirassé servi par un équipage énorme n'avait plus sa place dans cette nouvelle donne et à la fin de la Guerre du Golfe, le New Jersey et le Wisconsin furent mis à la retraite en septembre 1991. Le Missouri servit un peu plus longtemps comme dernier cuirassé actif de l'histoire navale. Il participa aux cérémonies du 50<sup>e</sup> anniversaire de l'attaque de Pearl Harbor en décembre avant d'être retiré du service à Long Beach le 31 mars 1992.

Les quatre cuirassés de la classe Iowa furent maintenus en réserve jusqu'au 12 janvier 1995, date à laquelle ils sortirent du registre naval américain. Le 4 mai 1998, l'U.S. Navy fit don du Missouri à l'USS Missouri Memorial Association qui l'ouvrit au public (Battleship Missouri Memorial) à Pearl Harbor le 29 janvier 1999, 55 ans après son premier lancement. Jusqu'à août 2012, plus de 500 millions de personnes l'avaient visité et le Missouri est apparu dans de nombreux films hollywoodiens.

#### ■Pour Conclure

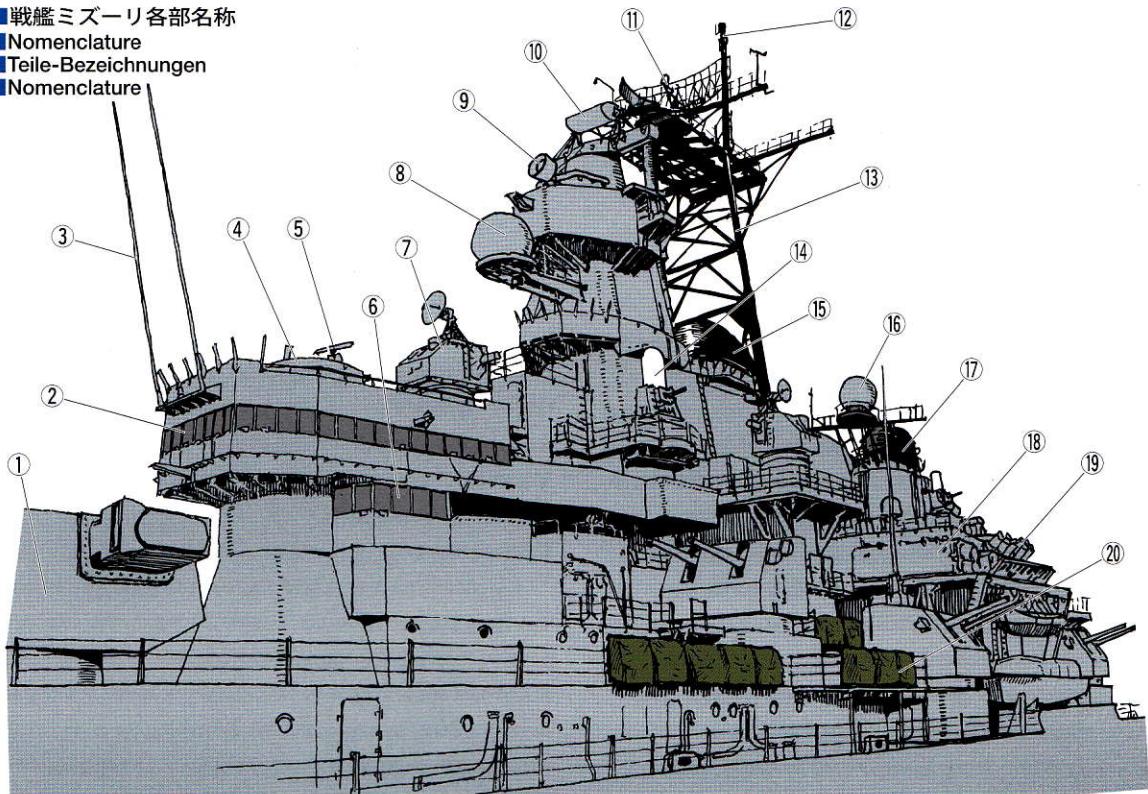
La classe Iowa a bénéficié de circonstances extrêmement favorables. Les premiers cuirassés étaient souvent impliqués dans de terribles combats d'artillerie avec leurs pairs et beaucoup furent sévèrement endommagés ou détruits, tandis que ceux de la classe Iowa ne furent jamais confrontés à ces situations du fait de la domination américaine à la fin de la 2<sup>e</sup> G.M. Ce fut également le cas durant la Guerre du Golfe. C'est pourquoi la classe Iowa peut être considérée comme l'opposée de la classe Yamato japonaise entrée en service dans des conditions défavorables. Cependant, aucune de ces deux classes n'a pu remplir sa mission première, à savoir affronter l'autre. En cela, elles partagent la distinction d'avoir mis un terme à l'ère des cuirassés.

Texte original Japonais de Mr. Yoshihide Kobayashi



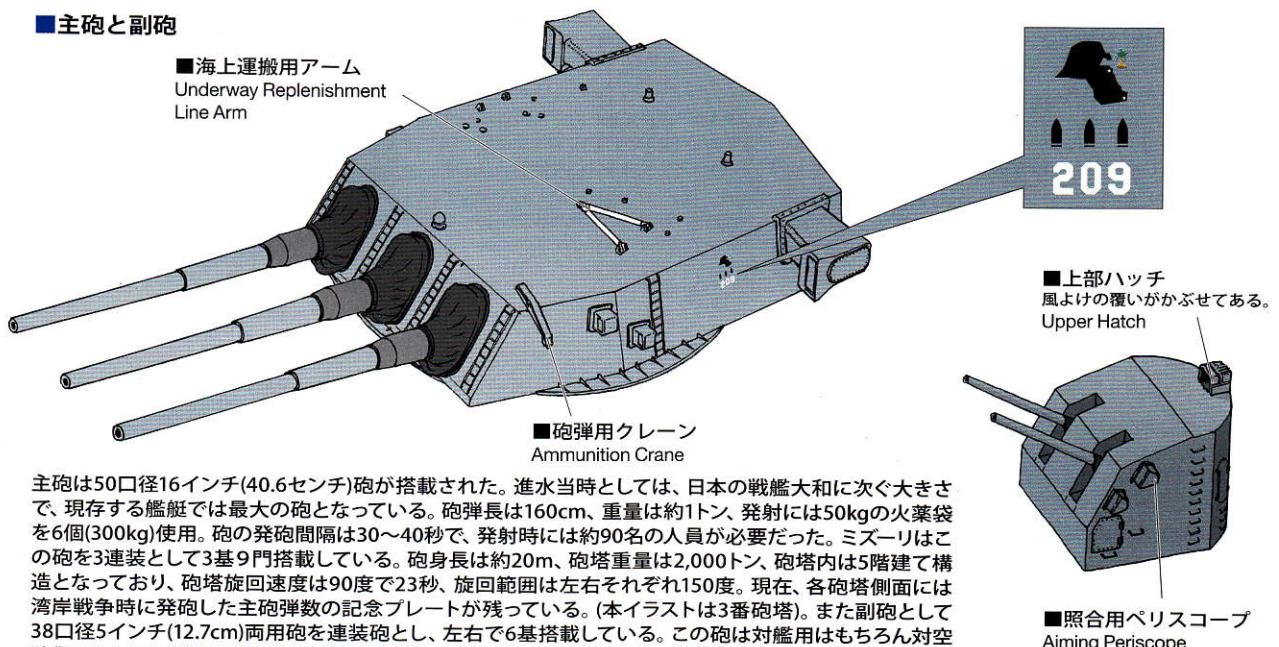
●再就役なって、サンフランシスコ湾を航行中のミズーリ。  
●The USS Missouri while underway in her modernized form.

■ 戦艦ミズーリ各部名称  
■ Nomenclature  
■ Teile-Bezeichnungen  
■ Nomenclature



- |  |  |   |  |
|--|--|---|--|
| ① 番主砲                                  | ① Main Gun Turret No.2                             | ① Hauptgeschützturm 2                                 | ① Tourelle principale No.2                               |
| ② 航海艦橋 (ブリッジ)                          | ② Bridge   | ② Brücke  | ② Passerelle   |
| ③ ホイップアンテナ                             | ③ Whip Antenna                                     | ③ Wurfantenne   | ③ Antenne fouet  |
| ④ Mk.40 Mod.1 砲射撃指揮所 /<br>司令塔          | ④ Mk.40 Mod.1 Gun Fire<br>Control Center           | ④ Mk.40 Mod.1<br>Feuerleitanlage                      | ④ Centre de contrôle de tir des<br>canons Mk.40 Mod.1    |
| ⑤ 航海用レーダー                              | ⑤ Navigation Radar                                 | ⑤ Navigationsradar                                    | ⑤ Radar de navigation                                    |
| ⑥ 司令官用艦橋                               | ⑥ Captain's Bridge                                 | ⑥ Kapitänsbrücke                                      | ⑥ Passerelle de commandement                             |
| ⑦ 5 インチ砲用<br>Mk.37 射撃指揮装置              | ⑦ Mk.37 5-Inch Gun Director                        | ⑦ Mk.37 5-Inch Zielzuweiser                           | ⑦ Pointeur de canon de 5<br>pouces Mk.37                 |
| ⑧ SPQ-9 対水上搜索・追尾レーダー                   | ⑧ AN/SPQ-9 Surface<br>Search/Tracking Radar        | ⑧ AN/SPQ-9 Such und<br>Zielfolgeradar                 | ⑧ Radar de<br>recherche/poursuite de<br>surface AN/SPQ-9 |
| ⑨ OE-82C/WSC-1 衛星通信アンテナ                | ⑨ OE-82C/WSC-1 Satellite<br>Communications Antenna | ⑨ OE-82C/WSC-1 Antenne für<br>Satellitenkommunikation | ⑨ Antenne de communication<br>satellite OE-82C/WSC-1     |
| ⑩ SPS-10 水上搜索レーダー                      | ⑩ AN/SPS-10 Surface<br>Search Radar                | ⑩ AN/SPS-10<br>Bodensuchradar                         | ⑩ Radar de surface AN/SPS-10                             |
| ⑪ SPS-49 対空レーダー                        | ⑪ AN/SPS-49 Air Search<br>Radar                    | ⑪ AN/SPS-49<br>Luftraumüberwachungsradar              | ⑪ Radar de veille aérienne<br>AN/SPS-49                  |
| ⑫ URN-25 航法援助装置                        | ⑫ AN/URN-25 Tactical Air<br>Navigation System      | ⑫ AN/URN-25 Taktisches<br>Navigationssystem           | ⑫ Système de navigation<br>aérienne tactique AN/URN-2    |
| ⑬ マスト                                  | ⑬ Mast   | ⑬ Mast  | ⑬ Mât  |
| ⑭ CIWS (艦艇用近接防御システム)<br>20 mm機関砲ファランクス | ⑭ Phalanx CIWS (Close-In<br>Weapon System)         | ⑭ Phalanx Nahbereichswaffe                            | ⑭ CIWS (Close-In Weapon<br>System) Plalanx               |
| ⑮ 第1煙突                                 | ⑮ No.1 Funnel                                      | ⑮ Schornstein 1                                       | ⑮ Cheminée No.1  |
| ⑯ パイオニア RPV 指揮通信用アン<br>テナ              | ⑯ Pioneer RPV<br>Communications Antenna            | ⑯ Pioneer RPV<br>Kommunikationsantenne                | ⑯ Antenne de communication<br>Pioneer RPV                |
| ⑰ 第2煙突                                 | ⑰ No.2 Funnel                                      | ⑰ Schornstein 2                                       | ⑰ Cheminée No.2  |
| ⑱ トマホーク巡航ミサイル                          | ⑱ RGM-109B Tomahawk<br>Launcher                    | ⑱ RGM-109B Tomahawk<br>Starter                        | ⑱ Lanceur RGM-109B<br>Tomahawk                           |
| ⑲ ハープーン対艦ミサイル                          | ⑲ RGM-84 Harpoon<br>Launcher                       | ⑲ RGM-84 Harpoon Starter                              | ⑲ Lanceur RGM-84 Harpoon                                 |
| ⑳ 救命ボート                                | ⑳ Life Raft  | ⑳ Rettungsfloß  | ⑳ Canot de sauvetage                                     |

## ■主砲と副砲



主砲は50口径16インチ(40.6cm)砲が搭載された。進水当時としては、日本の戦艦大和に次ぐ大きさで、現存する艦艇では最大の砲となっている。砲身長は160cm、重量は約1トン、発射には50kgの火薬袋を6個(300kg)使用。砲の発砲間隔は30~40秒で、発射時には約90名の人員が必要だった。ミズーリはこの砲を3連装として3基9門搭載している。砲身長は約20m、砲塔重量は2,000トン、砲塔内は5階建で構造となっており、砲塔旋回速度は90度で23秒、旋回範囲は左右それぞれ150度。現在、各砲塔側面には湾岸戦争時に発砲した主砲弾数の記念プレートが残っている。(本イラストは3番砲塔)。また副砲として38口径5インチ(12.7cm)両用砲を連装砲とし、左右で6基搭載している。この砲は対艦用はもちろん対空防御用としても使用できる優れた砲で、同サイズの旧日本海軍の12.7cm砲と比較しても、炸薬量と初速ともに明らかに勝っていた。特に近代化改装後は正確なレーダー射撃が行われ、命中精度が確保されたため、20門あった砲は12門に減らされた。

## ■Main & Secondary Batteries

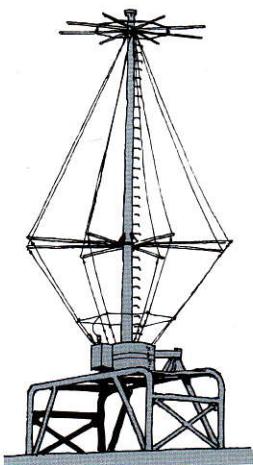
The Missouri's 50-caliber 16-inch (40.6cm) main guns were second only to those of Japan's Yamato-class battleships. The 1-ton shells each required six 50kg propellant charges to fire. Each 2,000-tonne turret housed three guns, required 90 crew to operate, and could rotate 150° in each direction. Plaques on the side of the turrets indicate the number of shells each had fired during the 1991 Gulf War. The secondary battery consisted of six twin 38-caliber 5-Inch (12.7cm) DP gun turrets (reduced from the original 10 turrets). A modern radar-directed fire control system ensured that they were highly accurate.

## ■Schwere und Mittelschwere Artillerie

Die 50 Kaliber, 16 Inch (40,6 cm) Kanonen der Hauptartillerie der Missouri waren die zweitgrößten nach denen der Yamato Klasse. Die eine Tonne schweren Geschosse benötigten sechs Ladungen mit jeweils 50kg Treibladung. In jedem der 2000 Tonnen schweren Türme waren drei Kanonen montiert. Sie benötigten 90 Mann für die Bedienung und konnten 150° in jede Richtung gedreht werden. Auf der Seite der Türme befinden sich Plaketten auf denen die Anzahl der verschossenen Munition aus dem Golfkrieg 1991 eingetragen ist. Die mittlere Artillerie bestand aus 6 38 Kaliber, 5 Inch (12,7cm) Mehrzweckzwillingsskanonen (der Rest der ursprünglichen 10 Türme). Eine moderne Radar-gesteuerte Feuerleitanlage sorgte für große Präzision.

## ■Batteries Principales & Secondaires

Les canons de 16 pouces (40,6cm) 50 calibres du Missouri ne sont surpassés que par ceux des cuirassés japonais de la classe Yamato. Les obus de 1 tonne nécessitaient six charges de 50kg de poudre. Chaque tourelle de 2.000 tonnes logeait trois canons, nécessitait 90 hommes d'équipage et pouvait tourner de 150° dans les deux directions. Les plaques sur le côté des tourelles indiquent le nombre d'obus tirés durant la Guerre du Golfe de 1991. L'armement secondaire était constitué de six tourelles doubles de 5 pouces (12,7cm) 38 calibres (à l'origine, il y en avait dix). Un système de contrôle de tir par radar moderne assurait la haute précision des tirs.



## ■ディスケージ・ディスコーンアンテナ

艦首にそびえ立つディスコーンアンテナはVHF~UHF帯まで幅広くカバーする全指向性アンテナ。通常「クリスマスツリー」と呼ばれて親しまれている。アンテナ部は頂点の8方向に広がった物が30MHz帯まで、その下の8本の空中線が12MHz帯までの周波数をカバーする構造になっている。

## ■Discone-Cage Antenna

This omnidirectional antenna was located at the bow and covered a wide frequency range from VHF to UHF bands. It was affectionately called the "Christmas Tree" and the upper radials covered up to 30MHz while the lower ones covered up to 12MHz.

## ■Radar Antenne

Diese Rundumantenne war am Bug angebracht und deckte einen weiten Frequenzbereich von VHF bis UHF ab. Sie wurde nach ihrer Form „Christbaum“ genannt und die oberen Elemente funktionierten bis zu 30 MHz, während die Unteren bis 12 MHz arbeiteten.

## ■Antenne Discone

Cette antenne omnidirectionnelle située à la proue couvre un vaste spectre de fréquence des bandes VHF à UHF. Elle était affectueusement surnommée "Arbre de Noël" et les branches supérieures couvraient jusqu'à 30MHz et les plus basses jusqu'à 12 MHz.

## ■CIWS(艦艇近接防御対空兵器)20mm機関砲 ファランクス

飛来した敵の航空機および、対艦ミサイルを迎撃する目的で開発された、近接防御兵器のCIWSは上部円頭部に対空レーダーを装備し、自動的に索敵迎撃が行えるシステムを備える。口径20mm6本の回転銃身を備えた機関砲で、毎分3,000発の発射速度を誇る。

### ■Phalanx CIWS (Close-In Weapon System)

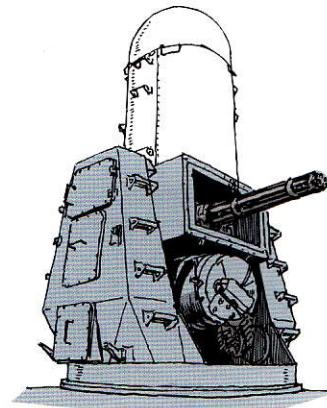
The Phalanx CIWS was developed to defend against aircraft or anti-ship missiles and its cylindrical upper section contained the radar and automatic targeting system. Its 20mm six barreled Gatling gun could fire at a rate of 3,000 rounds per minute.

### ■Phalanx CIWS (Nahbereichswaffe)

Die Phalanx Nahbereichswaffe wurde zur Verteidigung gegen Luftfahrzeuge und Raketen entwickelt. Ihr zylindrisches Oberteil enthielt das Radar und die automatische Zielverfolgung. Die 20mm Waffe mit sechs rotierenden Läufen konnte 3.000 Schuss pro Minute abgeben.

### ■Phalanx CIWS (Close-In Weapon System)

Le dispositif Phalanx CIWS a été développé pour assurer la défense contre les avions et missiles anti-navires. Sa partie supérieure cylindrique renferme le radar et système automatique de visée. Son canon à six tubes Gatling peut tirer à 3.000 coups par minute.



■CIWS 20 mm機関砲 ファランクス

## ■ハープーン対艦ミサイル

ハープーンミサイルは、アメリカ合衆国のマクドネル・ダグラス社が開発した対艦ミサイルで射程は約340km。慣性誘導とアクティブレーダーホーミングにより誘導され敵艦を撃沈する。弾体はMK.141キャニスターに装填され、4本がひとまとめになって搭載されている。ちなみに"Harpoon"とは、捕鯨のモリのこと。海上自衛隊の護衛艦も含め、多くの西側諸国艦船に搭載されている。

### ■RGM-48 Harpoon Missile Launcher

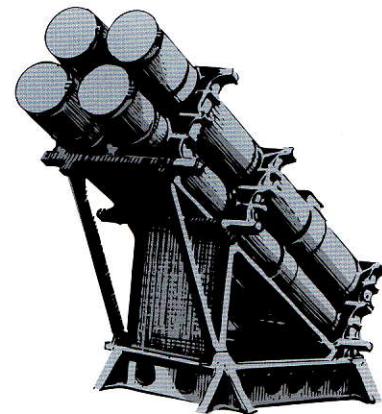
The Harpoon was developed by McDonnell Douglas as an anti-ship missile with active radar homing guidance and had a range of 340km. The missile was housed in Mk.141 canister launchers which could hold up to four missiles. It is widely used by Western Navies as well as the Japanese Maritime Self Defense Force.

### ■RGM-48 Harpoonstarter

Die Harpoon wurde von McDonnell Douglas als Anti-Schiffsrakete mit aktivem Radarsuchkopf entwickelt und hatte eine Reichweite von 340 km. Die Rakete wurde in einem Starter mit 4 Behältern verwendet. Sie wird häufig bei den westlichen Marinekräften genutzt; unter anderem auch bei der Japanischen Marine.

### ■Lance-missiles RGM-48 Harpoon

Le Harpoon, développé par McDonnell Douglas, est un missile anti-navire d'une portée de 340km avec guidage radar actif. Le missile est logé dans un caisson de lancement Mk.141 qui peut contenir jusqu'à quatre missiles. Il est en service dans les marines occidentales et japonaise.



■ハープーン対艦ミサイル

## ■トマホーク巡航ミサイル

艦船搭載型のトマホークにはTLAM対地攻撃型のBGM-109AとTASM対艦攻撃型のBGM-109Bの他にC、D型などがある。慣性誘導とアクティブルーデー、GPSなどを駆使して敵のレーダーが探知できない低空を蛇のように這いながら進入し、目標を攻撃。射程距離はBGM-109Aが2,500km、BGM-109Bが460kmとなっている。ニュージャージーには4発収納の発射機を2連としてMk.43発射機が4ヶ所配置された。

### ■BGM-109 Tomahawk Cruise Missile Launcher

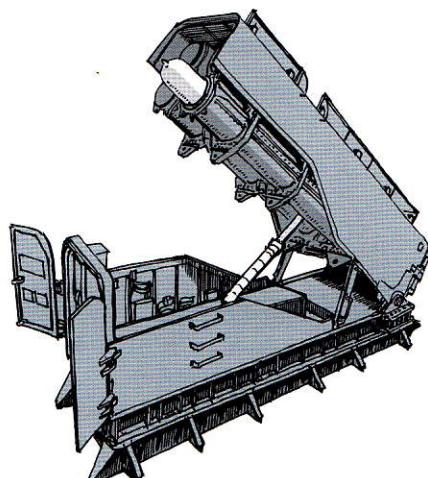
Aside from the BGM-109A Tomahawk Land Attack Missile (TLAM) and the BGM-109B Tomahawk Anti-Ship Missile (TASM), there are also C and D variants of this cruise missile. Guided by active radar and GPS, it flies low to avoid radar detection as it heads toward its target. The BGM-109A and BGM-109B have ranges of approximately 2,500km and 460km respectively. Two quadruple box launchers make up a Mk.43 launcher system and the New Jersey was equipped with four such systems.

### ■BGM-109 Starter für Tomahawk Cruise Missile

Neben der BGM-109A Tomahawk Version für Landziele (TLAM) und der BGM-109B Version für Schiffsziele (TASM) gab es auch C und D Versionen von dieser Cruise Missile. Durch einen aktiven Radarsuchkopf und Satellitennavigation gesteuert fliegt sie sehr tief auf das Ziel zu, um eine Entdeckung durch Radar zu vermeiden. Die BGM-109A und die BGM-109B haben eine Reichweite von 2.500km bzw 460km. Zwei vierfach Starter bilden ein MK 43 Startersystem und die New Jersey hatte vier dieser Systeme.

### ■Lance-missiles de croisière BGM-109 Tomahawk

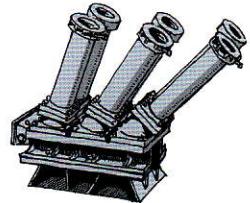
En plus des BGM-109A Tomahawk (TLAM) d'attaque terrestre et BGM-109B Tomahawk (TASM) anti-navire, il existe aussi les versions C et D de ce missile de croisière. Guidé par radar actif et GPS, il vole très bas vers sa cible pour éviter d'être détecté par les radars ennemis. Les BGM-109A et BGM-109B ont une portée de 2.500km et 460km respectivement. Deux lanceurs quadruples constituent une batterie Mk.43. Le New Jersey était équipé de quatre de ces batteries.



■トマホーク巡航ミサイル

## ■SRBOC チャフロケットランチャー

ユナイテッド・ディフェンス社の開発した敵レーダー攪乱物発射装置。飛来する敵ミサイルの誘導装置や、敵レーダーを攪乱し目標を見失わせる働きがある。ニュージャージーには6連のMk.36発射機が第1煙突両サイドに4基ずつ配置されている。



## ■SRBOC (Super Rapid Bloom Offboard Chaff) Rocket Launcher

The SRBOC Rocket Launcher was developed by United Defense Industries as a means to confuse enemy radars and the guidance systems of incoming missiles. Four of these six-barreled Mk.36 launchers were fitted on either side of the New Jersey's No.1 funnel.

## ■SRBOC ( Super Rapid Bloom Offboard Chaff ) Raketenstarter

Der Starter wurde von der Amerikanischen Militärfabrik entwickelt um Radar und Lenksysteme einfliegender Raketen zu täuschen. Vier dieser sechsläufigen Starter waren auf beiden Seiten des Schornsteins 1 der New Jersey angebracht

## ■Lance-roquettes SRBOC (Super Rapid Bloom Offboard Chaff)

Le lance-roquettes SRBOC a été développé par United Defense Industries pour leurrer les radars ennemis et le système de guidage des missiles ennemis dirigés sur le navire. Quatre de ces lanceurs à six tubes Mk.36 étaient installés de part et d'autre de la cheminée N°1 du New Jersey.

## ■SH-60B シーホーク

アメリカ軍などで幅広く使用されている汎用型ヘリコプター、H-60シリーズ。中でも、SH-60B シーホークは、駆逐艦やフリゲートなどの狭い飛行甲板や格納庫でも扱えるように、メインローターとテールコーンが折りたためるようにになっている。対潜艦作戦(ASW)、敵艦隊の探知、目標位置の捕捉などの任務を担い、武装は魚雷と対艦ミサイルを装備する。



## ■SH-60B Seahawk

The H-60 family of helicopters has been widely used by the militaries of the U.S. and other countries. The SH-60B Seahawk was designed to operate from destroyers and frigates and featured foldable main rotor blades and tail assembly. They could be tasked with missions such as Anti-Submarine Warfare (ASW), reconnaissance, and target spotting and could be armed with torpedoes or anti-ship missiles.

## ■SH-60B Seahawk

Die Familie der H-60 Helikopter wurde häufig von den USA und anderen Nationen genutzt. Die SH-60B Seahawk wurde für die Nutzung auf Zerstörern und Fregatten entwickelt und besaß faltbare Haupt- und Heckrotorblätter. Sie konnte für die U-Bootabwehr (ASW), die Aufklärung und Zielbeobachtung eingesetzt werden und mit Torpedos und Anti-Schiffsraketen ausgestattet werden.

## ■SH-60B Seahawk

La famille d'hélicoptères H-60 est employée en très grands nombres par les forces armées des Etats-Unis et d'autres nations. Le SH-60B Seahawk, conçu pour opérer depuis des destroyers et frégates, est doté de pales de rotor et d'une queue repliables. Il peut effectuer des missions de lutte anti-sous-marin, de reconnaissance, de recherche de cibles et être armé de torpilles et de missiles anti-navires.

## ■RQ-2 パイオニア

現在、アメリカ軍は数多くの無人機を運用しているが、1986年当時、アイオワ級戦艦に配備されていたのがRQ-2パイオニアである。当初は射撃観測が主な任務だったが、現在では偵察、観測などの任務もこなす多目的兵器に進化している。5時間前後の飛行が可能で75ポンドのペイロードを備え、ビデオカメラを使って地上観測もリアルタイムで行うことができる。艦船からはロケットブースターでアシストランチャーから発射。回収は大型ネットを使ってキャッチする。

## ■RQ-2 Pioneer

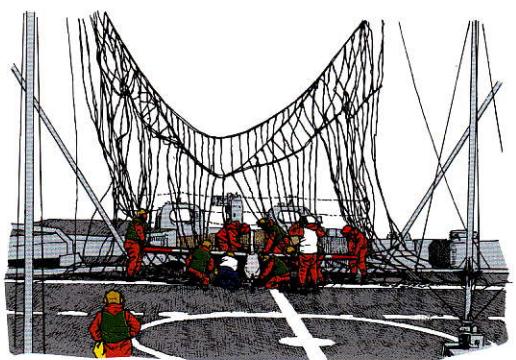
The RQ-2 Unmanned Aerial Vehicle (UAV) was deployed onboard Iowa-class battleships from 1986. It was intended to serve as gunnery spotters but its role expanded to include reconnaissance and surveillance duties. It could remain airborne for five hours, carry a 75lb payload, and was equipped with sensors to provide real-time imagery. After a rocket-assisted take-off, the RQ-2 would be flown into a net for recovery.

## ■RQ-Pioneer

Das RQ-2 Pioneer unbemannte Luftfahrzeug (UAV) wurde an Bord der Schlachtschiffe der Iowa Klasse von 1986 an mitgeführt. Es war vorgesehen als Artilleriebeobachter aber seine Rolle erweiterte sich und schloss andere Aufklärungs- und Überwachungsaufträge ein. Es konnte fünf Stunden in der Luft bleiben, 75 Pfund Ausrüstung tragen und war mit Sensoren für die Live-Bildübertragung ausgerüstet. Nach einem Start mit Raketenunterstützung wurde das RQ-2 nach dem Flug in einem Netz aufgefangen.

## ■RQ-2 Pioneer

Le drone RQ-2 -Unmanned Aerial Vehicle (UAV), a été déployé sur les bâtiments de la classe Iowa à partir de 1986. Sa mission première était le réglage des tirs d'artillerie mais elle fut étendue à la reconnaissance et à la surveillance. Il pouvait tenir l'air pendant cinq heures, emporter une charge de 40kg et était équipé de capteurs fournissant des images en temps réel. Après un décollage assisté par fusée, le RQ-2 était récupéré dans un filet.



## 《主要目(1991年頃)》

基準排水量：45,000 t  
 満載排水量：57,500 t  
 全 長：270.4m  
 最大幅：32.98m  
 吃 水：11.58m  
 速 力：33 ノット  
 乗 員：1,515名  
 主 機：ジェネラルエレクトリック製タービン  
 ボイラー：バブコック & ウィルコックス 565psi × 8、  
 出 力：212,000馬力 軸 数：4  
 兵 装：16インチ主砲3連装×3基-9門  
     5インチ高角砲連装×6基-12門  
     トマホーク巡航ミサイル4連装×8基  
     ハープーン対艦ミサイル4連装×4基  
     CIWSファランクス20mm機関砲×4基  
     RQ-2パイオニア無人偵察機

## 《Specifications》

**Standard Displacement:** 45,000 tons  
**Fully-Loaded Displacement:** 57,500 tons  
**Length:** 270.4m  
**Beam:** 32.98m  
**Draft:** 11.58m  
**Maximum Speed:** 33 knots, **Crew:** 1,515  
**Propulsion:** General Electric Steam Turbines  
**Boilers:** Babcock & Wilcox 565psi Boiler × 8  
**Output:** 212,000hp  
**Number of Screws:** 4  
**Armament:** Triple 16-Inch Gun Turret x3 (9 Guns)  
     Twin 5-Inch DP Gun Turret x6 (12 Guns)  
     Quadruple Tomahawk Missile Launcher x8  
     Quadruple Harpoon Missile Launcher x4  
     Phalanx 20mm CIWS x4  
     RQ-2 Pioneer Unmanned Aerial Vehicle

■写真提供 世界の艦船

■解説 小林 義秀

■イラスト 上田 信



TAMIYA, INC. 3-7 ONDAWARA, SURUGA-KU, SHIZUOKA 422-8610 JAPAN

株式会社タミヤ 〒422-8610 静岡市駿河区恩田原3-7 [www.tamiya.com](http://www.tamiya.com)